

(別添)

ボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰及び感謝状贈呈要綱

1 趣 旨

この表彰及び感謝状の贈呈は、福祉分野等のボランティア活動を、永年率先して行っている者、又は永年にわたりボランティア活動への支援を行っている者であって、その功績が特に顕著であると認められるものに対して行うものであること。

2 被表彰者等の範囲

福祉分野等のボランティア活動、又はボランティア活動への支援を行っている者であって、その功績が特に顕著なものとして、次の各号のいずれかに該当するもの。

ただし、主たる活動が他の大臣表彰制度の対象とする分野である場合を除く。

(1) 個 人

ボランティア活動を行う個人であること。

(2) グループ・団体等

ア ボランティア活動を行うグループ・団体、住民参加型福祉サービス団体、生活協同組合、農業協同組合、企業、労働組合等であること。

イ 従業員、組合員等が行うボランティア活動への支援を行う企業、労働組合等であること。

(3) 学 校

ボランティア活動を行う学校であること。

3 被表彰等候補者の選定基準

(1) 表 彰

表彰を受ける候補者は、前記2に掲げる者であって、次のア及びイに該当するものとする。

ア 活動年数等

(ア) 個 人

過去20年以上にわたり率先して活動を行い、引き続き現在も活動を行っている者、又は過去15年以上にわたり率先して活動を行い、引き続き現在も活動を行っている者であって、その活動が他の模範となるもの。

(イ) グループ・団体等及び学校

過去10年以上にわたり率先して活動又は支援を行い、引き続き現在も活動を行っている者であって、その活動が他の模範となるもの。

イ 表彰歴

(ア) 表彰対象者

過去において、都道府県知事、指定都市市長又は中核市市長から、福祉分野等のボランティア功労者としての表彰を受けている者。

ただし、表彰制度を設けていない都道府県、指定都市又は中核市で、本要綱の要件に合致する対象者がいる場合において、表彰制度を設けるまでの間はこの限りでない。

(イ) 表彰対象除外者

過去において、

a 叙勲を受けている者。

b 福祉分野等のボランティア功労者として、褒章条例による藍綬褒章、黄綬褒章、緑綬褒章を受けている者。

c ボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰又は感謝状（感謝状を受けてから5年未満の場合に限る。）を受けている者。

(2) 感謝状の贈呈

感謝状の贈呈を受ける候補者は、前記2に掲げる者であって、次のア及びイに該当するものとする。

ア 活動年数等

(ア) 個人

過去10年以上にわたり率先して活動を行い、引き続き現在も活動を行っている者であって、その活動が顕著なもの、又は過去5年以上にわたり率先して活動を行い、引き続き現在も活動を行っている者であって、その活動が特に顕著なもの。

(イ) グループ・団体等及び学校

過去5年以上にわたり率先して活動又は支援を行い、引き続き現在も活動を行っている者であって、その活動が顕著なもの。

イ 表彰歴

(ア) 表彰対象者

過去において、都道府県知事、指定都市市長又は中核市市長から、福祉分野等のボランティア功労者としての表彰を受けている者、又はそれに相当する程度の特に出る活動が認められる者。

(イ) 表彰対象除外者

過去において、

a 叙勲を受けている者。

b 福祉分野等のボランティア功労者として、褒章条例による藍綬褒章、黄綬褒章、緑綬褒章を受けている者。

c ボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰又は感謝状を受けている者。

4 被表彰等候補者の推薦

(1) 地方推薦

都道府県知事、指定都市市長又は中核市市長は、前記2及び3に該当する者があるときは、表彰を受ける候補者及び感謝状の贈呈を受ける候補者それぞれについて、2の(1)に該当する者は原則として1名を、2の(2)及び(3)に該当する者は合わせて原則として2名以内を推薦すること。

(2) 全国社会福祉協議会推薦

社会福祉法人全国社会福祉協議会会長は、都道府県の区域を超えて広域的に活動又は支援を行う前記2及び3（(1)イ(ア)及び(2)イ(ア)を除く）に該当する者があるときは、表彰を受ける候補者及び感謝状の贈呈を受ける候補者それぞれについて、2の(1)に該当する者は原則として1名を、2の(2)に該当する者は原則として2名以内を推薦すること。

(3) 推薦に当たっては、別紙様式1、2及び3によりそれぞれ推薦調書を作成し、地域福祉課あて提出すること。

5 被表彰者等の決定

被表彰者等については、厚生労働省内に設ける選考委員会において審査し、選考のうち厚生労働大臣が決定するものとする。

選考委員会の構成は、次のとおりとする。

社会・援護局長

社会・援護局総務課長

社会・援護局地域福祉課長

大臣官房人事課長

大臣官房総務課長

6 その他

推薦調書に記載された個人情報、本表彰による被表彰者の推薦、選考及び決定に係る事務以外に活用してはならないこと。

別紙様式1

ボランティア被表彰等候補者推薦調書（個人）

都道府県・指定都市・中核市名

推薦区分	1 表 彰		2 感謝状の贈呈	
ふりがな	-----		性 別	生年
氏 名			男・女	月日
				明 大 昭 平
				年 月 日
				(満 歳)
ふりがな	-----			
現住所				
職 業	1 自 営 業	4 主 婦	7 そ の 他	
	2 常勤の被傭者	5 学 生		
	3 非常勤の被傭者	6 退 職 者		
活動実績	「活動実績調書」に具体的に記入すること。		主なボランティア活動の通算年数	年 月
推薦理由				
賞 罰 歴	平成（令和）〇年〇月	〇〇市市長表彰（〇〇〇〇〇〇功労）		
	平成（令和）〇年〇月	〇〇県知事表彰（ボランティア功労）		
推薦順位	〇 位			
参考事項				

【調書作成担当者】 〇〇県〇〇〇部〇〇〇〇課〇〇〇係 担当：〇〇
TEL 〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇（内線〇〇〇〇）

(記入要領)

- 1 調書の作成時点は、前年度末現在とすること。
- 2 調書の作成に当たっては、誤読のおそれのないよう書体に留意すること。
- 3 「推薦区分」欄については、1、2のいずれかに○印を付すこと。
- 4 「氏名」欄については、間違いのないよう楷書で正確に記入するとともに、必ずふりがなを付すこと。
- 5 「職業」欄については、1から7のいずれかに○印を付すこと。
- 6 「活動実績調書」の主なボランティア活動の「活動分野」欄は、被表彰等候補者本人の活動のうち、現在も継続している活動の中から、本人より聴取の上、原則として一つ選び記入すること。
ただし、例えば福祉分野の中で、高齢者を対象とした活動を10年行い、その後障害者を対象とした活動を10年行っている場合や高齢者に対する食事づくり活動を10年行い、その後高齢者に対する介助活動を10年行っている場合などは「活動分野」欄に併記して差し支えないこと。
- 7 「活動実績調書」の「活動内容」欄は、当該ボランティア活動に対する評価を客観的に行うため、できる限り具体的に、かつ、詳細に記入すること。
 - (1) 「1 活動年数等」について
 - ア 「(1) 活動始期」については、活動始期の年月を表示すること。
 - イ 「(2) 活動年数」については、現在に到るまでの通算年数を表示すること。また、活動年数は要綱に定める年数要件を満たしている必要があること。
 - ウ 「(3) 活動頻度」については、活動期間を通ずる年間の平均的活動日数を表示すること（概数であっても差し支えない）。
 - エ 「(4) 活動時間」については、活動期間を通ずる年間の一日当たり平均的活動時間を表示すること（概数であっても差し支えない）。
 - (2) 「2 各年毎（前年度までの過去3か年度を除く）の活動の具体的内容（分野、頻度等）」について
活動期間（前年度までの過去3か年度を除く）を通ずるボランティア活動の内容について、経年的に記入すること。また、できる限り具体的に、かつ、詳細に記入すること。
 - (3) 「3 前年度までの過去3か年度の詳細な活動実績」について
前年度までの過去3か年度の活動実績について、できる限り具体的に、かつ、詳細に記入すること。
- 8 「推薦理由」欄については、簡潔に記入すること。
なお、文章の修飾は必要ないこと。
- 9 「賞罰歴」欄については、表彰者及び対象となった功労の内容を明記することとし、表彰期日の順序に従い記入すること。
なお、ボランティア功労者に対する厚生労働大臣感謝状を受けている場合、受けた年を記入すること。
- 10 「参考事項」欄については、表彰を決定するうえで参考となる事項があれば記入すること。また、本人の功績を具体的に示すような参考資料（新聞掲載記事等）がある場合は別途添付すること。

別紙様式2

ボランティア被表彰等候補者推薦調書（グループ・団体等）

		都道府県・指定都市・中核市名	
推薦区分	1 表 彰	2 感謝状の贈呈	
ふりがな 名称	-----	設立年月日	明 大 年 月 日 昭 平 (設立後 年)
ふりがな 代表者名	-----	(活動者数) 団体員数	(人) 人
ふりがな 所在地	-----		
活動実績	「活動実績調書」に具体的に記入 すること。	主なボランティア 活動の通算年数	年 月
推薦理由			
賞 罰 歴	平成（令和）〇年〇月 〇〇市市長表彰（〇〇〇〇〇〇功労） 平成（令和）〇年〇月 〇〇県知事表彰（ボランティア功労）		
推薦順位	〇 位		
参考事項			

【調書作成担当者】 〇〇県〇〇〇部〇〇〇〇課〇〇〇係 担当：〇〇
TEL 〇〇〇〇－〇〇－〇〇〇〇（内線〇〇〇〇）

(記入要領)

- 1 調書の作成時点は、前年度末現在とすること。
- 2 調書の作成に当たっては、誤読のおそれのないよう書体に留意すること。
- 3 「推薦区分」欄については、1、2のいずれかに○印を付すこと。
- 4 「名称」及び「代表者名」欄については、間違いのないよう楷書で正確に記入するとともに、必ずふりがなを付すこと。
- 5 当該グループ・団体等の「所在地」が明確でない場合には、当該グループ・団体等の主な活動場所、区域等を記入すること。
- 6 「活動実績調書」の主なボランティア活動の「活動分野」欄は、当該グループ・団体等の活動のうち、現在も継続している活動の中から、当該グループ・団体等より聴取の上、原則として一つ選び記入すること。
ただし、例えば福祉分野の中で、高齢者を対象とした活動を5年行い、その後障害者を対象とした活動を5年行っている場合や高齢者に対する食事サービスを5年行い、その後高齢者に対する介護サービスを5年行っている場合などは「活動分野」欄に併記して差し支えないこと。
- 7 「活動実績調書」の「活動内容」欄は、当該ボランティア活動に対する評価を客観的に行うため、できる限り具体的に、かつ、詳細に記入すること。
 - (1) 「1 活動年数等」について
 - ア 「(1) 活動始期」については、活動始期の年月を表示すること。
 - イ 「(2) 活動年数」については、現在に到るまでの通算年数を表示すること。また、活動年数は要綱に定める年数要件を満たしている必要があること。
 - ウ 「(3) 活動頻度」については、活動期間を通ずる年間の平均的活動日数を表示すること（概数であっても差し支えない）。
 - エ 「(4) 活動時間」については、活動期間を通ずる年間の一日当たり平均的活動時間を表示すること（概数であっても差し支えない）。
 - (2) 「2 各年毎（前年度までの過去3か年度を除く）の活動の具体的内容（分野、頻度等）」について
活動期間（前年度までの過去3か年度を除く）を通ずるボランティア活動の内容について、経年的に記入すること。また、できる限り具体的に、かつ、詳細に記入すること。
 - (3) 「3 前年度までの過去3か年度の詳細な活動実績」について
前年度までの過去3か年度の活動実績について、できる限り具体的に、かつ、詳細に記入すること。
- 8 「推薦理由」欄については、簡潔に記入すること。
なお、文章の修飾は必要ないこと。
- 9 「賞罰歴」欄については、表彰者及び対象となった功労の内容を明記することとし、表彰期日の順序に従い記入すること。
なお、ボランティア功労者に対する厚生労働大臣感謝状を受けている場合、受けた年を記入すること。
- 10 「参考事項」欄については、表彰を決定するうえで参考となる事項があれば記入すること。また、当該グループ・団体等の功績を具体的に示すような参考資料（新聞掲載記事等）がある場合は別途添付すること。

別紙様式3

ボランティア被表彰等候補者推薦調書（学校）

		都道府県・指定都市・中核市名	
推薦区分	1 表 彰	2 感謝状の贈呈	
ふりがな 学校名	-----	設立年月日	明 大 年 月 日 昭 平 (設立後 年)
ふりがな 代表者名	-----	児童・生徒数	人
ふりがな 所在地	-----		
活動実績	「活動実績調書」に具体的に記入すること。	主なボランティア 活動の通算年数	年 月
推薦理由			
賞 罰 歴	平成（令和）〇年〇月 〇〇市市長表彰（〇〇〇〇〇〇功労） 平成（令和）〇年〇月 〇〇県知事表彰（ボランティア功労）		
推薦順位	〇 位		
参考事項			

【調書作成担当者】 〇〇県〇〇〇部〇〇〇〇課〇〇〇係 担当：〇〇
TEL 〇〇〇〇－〇〇－〇〇〇〇（内線〇〇〇〇）

活動実績調書（学校）

都道府県・指定都市・中核市名		学校名		ボランティア協力校指定年度		年度
区分	活動分野	活動内容				
主なボランティア活動	<p>(例1) 特別養護老人ホームでの交流活動</p> <p>(例2) 年賀はがき等による地域の高齢者との交流活動</p>	<p>1 活動年数等</p> <p>(1) 活動始期</p> <p>(2) 活動年数</p> <p>(3) 活動頻度</p> <p>(4) 活動時間</p> <p>2 各年毎（前年度までの過去3か年度を除く）の活動の具体的内容（分野、頻度等）</p> <p>3 前年度までの過去3か年度の詳細な活動実績</p>				
その他のボランティア活動						

(記入要領)

- 1 調書の作成時点は、前年度末現在とすること。
- 2 調書の作成に当たっては、誤読のおそれのないよう書体に留意すること。
- 3 「推薦区分」欄については、1、2のいずれかに○印を付すこと。
- 4 「学校名」及び「代表者名」欄については、間違いのないよう楷書で正確に記入するとともに、必ずふりがなを付すこと。
- 5 「活動実績調書」の主なボランティア活動の「活動分野」欄は、当該学校の活動のうち、現在も継続している活動の中から、当該学校より聴取の上、原則として一つ選び記入すること。
ただし、例えば福祉分野の中で、高齢者を対象とした活動を5年行い、その後障害者を対象とした活動を5年行っている場合や福祉施設での交流活動を5年行い、その後福祉施設での介護援助活動を5年行っている場合などは「活動分野」欄に併記して差し支えないこと。
- 6 「活動実績調書」の「活動内容」欄は、当該ボランティア活動に対する評価を客観的に行うため、できる限り具体的に、かつ、詳細に記入すること。
 - (1) 「1 活動年数等」について
 - ア 「(1) 活動始期」については、活動始期の年月を表示すること。
 - イ 「(2) 活動年数」については、現在に到るまでの通算年数を表示すること。また、活動年数は要綱に定める年数要件を満たしている必要があること。
 - ウ 「(3) 活動頻度」については、活動期間を通ずる年間の平均的活動日数を表示すること（概数であっても差し支えない）。
 - エ 「(4) 活動時間」については、活動期間を通ずる年間の一日当たり平均的活動時間を表示すること（概数であっても差し支えない）。
 - (2) 「2 各年毎（前年度までの過去3か年度を除く）の活動の具体的内容（分野、頻度等）」について
活動期間（前年度までの過去3か年度を除く）を通ずるボランティア活動の内容について、経年的に記入すること。また、できる限り具体的に、かつ、詳細に記入すること。
 - (3) 「3 前年度までの過去3か年度の詳細な活動実績」について
前年度までの過去3か年度の活動実績について、できる限り具体的に、かつ、詳細に記入すること。
 - (4) 「ボランティア協力校指定年度」について
指定された実績があればその年度を、特に該当がない場合は空欄とすること。
- 7 「推薦理由」欄については、簡潔に記入すること。
なお、文章の修飾は必要ないこと。
- 8 「賞罰歴」欄については、表彰者及び対象となった功労の内容を明記することとし、表彰期日の順序に従い記入すること。
なお、ボランティア功労者に対する厚生労働大臣感謝状を受けている場合、受けた年を記入すること。
- 9 「参考事項」欄については、表彰を決定するうえで参考となる事項があれば記入すること。また、当該学校の功績を具体的に示すような参考資料（新聞掲載記事等）がある場合は別途添付すること。